

Title	八十年代の英国社会主義 (一)
Sub Title	
Author	加田, 哲二
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.5 (1921. 5) ,p.703(111)- 716(124)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210501-0111

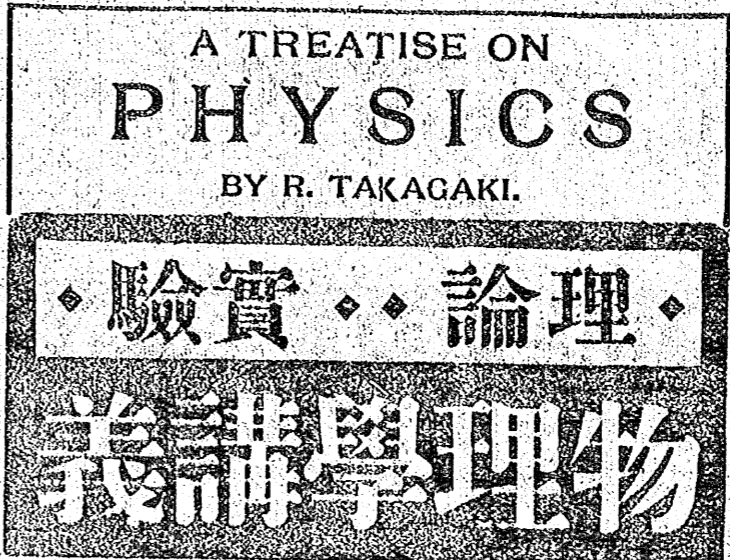
慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

最新刊

最新！最精！！最良！！
然して……最大！！

著生先郎太雷垣高 授教軍陸 士學理



菊紙綴 列敷 上七 函附 入頁 正價 也圓五金 送料四廿

本書は物理学の權威たる著者が多年の蘊蓄を傾倒して成れる苦心の結晶にして稿を起してより實に五年二月の長歲月を費せる空前の大著なり。
◆本書は物理学を學校に於て學べる人々の正確細密なる指導たると共に併せて教授者の最良參考書なり。
◆師なくして斯學を學ばんとする人々の完全なる唯一の良師友なり。
◆各種專門學校受験者の爲には完全なる良參考書なり、本書の特に意を用ひし處は説明の明確にして徹底的なる事、敘述の周到にして詳細を盡せる事、問題の多種多敷にして遺漏なき事、學問の本道たる幹と脇道たる枝とを明瞭に區別せる事、加ふるに
◆術語、定數、法則、公式、等の重要な事項は記憶に便せんが爲巻末に摘要欄を設けて一束としたる事、
◆索引に五十音順の他にローマ字順の索引をも附したり。
斯の如くにして成れる本書は眞に斯學の完璧にして近時物理学界の一大寶典とも謂ふべし。

事の附送錢四税郵必呈進〔録目籍書と表數對衍五〕

見よ誇るべき物理学界空前の名著を！！

發行所

東京市神田區萬神保町六番地

高岡書店

電話東京二一四三三番
電話神田三一九三番

雜錄

八十年代の英國社會主義 (一)

加田 哲 二

英國における社會運動は第十九世紀の始めから今日に到るまで大凡四期に分つて見る事が出来る。その第一期は第十九世紀の初葉から一八五〇年に到る五十年間である。この第一期は

社會的動搖、社會的不安の時代であつて、産業革命によつて發達して來た資本主義制度を敵視する言論並に運動が著しく起つた時代である。

St. Simon, Charles Fourier と共に三大空想的社

會主義者として有名な Robert Owen の社會主義學說並にその學說を實際に試みやうとする運動、David Ricardo の經濟學說から出發して、労働全收權を主張した Charles Hall, William Thompson, Francis Bray, John Gray, Thomas Hodgskin 等の Ricardian Socialists 並に是等の反資本主義的思想をその根底とした労働者階級の實際運動であつた Chartist 是等の思想並に運動は共に當時における社會的不安の状態を脱して社會的理想を實現せんとする努力であつた。然も、一八四八年における Chartist 運動の壊滅と共に、英國における社會主義的思想並に運動は一時終熄の状態となつた。

この社會主義的運動の終熄と共に、社會的平和の時代は一八八〇年に到る三十年間繼續した。この三十年間は労働者が半ば現存の秩序に無關心であり、半ばその熱心な支持者であつた。

海に Chartist 運動潰滅後における二十年間は英國有産階級自由主義の黄金時代であつた。自由主義の教義は J. S. Mill の「自由論」On Liberty, 1859(この書は初め小論文として計畫せられ、一八五四年に執筆されたもので、その出版以前の増訂に關しては Mill 夫人に負ふところ最も多く、その出版せられたるときは、夫人は既にこの世を去つた後であつた。Life and Writings of John Stuart Mill. by W. L. Courtney, p. 124) の中に有力に説述せられた。さうして英國商工業の異常なる發達は、英國をして、世界の中心市場たらしめたのである。かくて英國の社會状態は諸國が窮極において到達すべき目標とせられた。競争は經濟關係の決定者と見られ、自由貿易は國際的平和と親善との保證者と考へられ個人的自由は國內政治における神聖なる理想と觀念された。斯くの如き有産階級的思想の優越は

過去の社會革命的思想を一掃し、労働者階級をして勝ち誇つた自由主義の一部を形成せしめたのであつた。當時の有産階級の代辯者であつた W. E. Gladstone は彼等の勢力範圍内にあり、且つ彼等に好意を持つてゐる社會的勢力(労働者階級)に對して戰闘を開始するとの不必要なることを語つた。有産階級の政治家並に識者は社會主義や獨立の労働者階級の政治運動は、外來の産物であつて、決して英國の國土において繁榮しないことを確信した。労働組合側においてもすべての階級闘争を斷念し、單に現存の社會制度を破壊せざる範圍において所得分配の公平を期さうとした。故に彼等は世紀初葉において見られた革命的色彩を失ひ、その組合組織上においても産業的労働組合(Industrial Union)を捨てて職業別労働組合(Craft Union)の形式を採り資本主義制度を是認し、この範圍において雇傭

條件を改善向上し、労働者相互の間においては共濟制度を發達せしめるのに勉めた。この時期は、労働組合の確認に關する争闘があつたに拘らず、社會的平和の時代で、一八八〇年まで繼續されたのである。この時期において、労働組合の平和的發達と共に、消費組合の發達の顯著なるものがあるが、このことは省略して置く。第三期に相當する時代は一八八〇年から一九一〇年までの三十年間で、労働者階級は自由黨の協同者となり、國家並都市社會主義、新組合主義の發達した時代である。既に一八七五年以後において自由主義の權威は衰亡の兆を表はし、一八八〇年から一八九〇年に到る十年間においてそが明かに不満足なるとが立證せられた。一八七三年並に一八七四年においては鑛山地方、工業地方並農業地方において大罷業の勃發すると共に、労働者の代表者は議會に入るとになつ

た。斯くの如き有産階級に對しては不吉の事件の後に恐慌は來た。競争は小資産家を滅亡せしめ、大資本家の益々肥大せしめることを立證した。さうして外國、殊に保護關稅によつて養はれた米國並に獨乙の競争は英國商工業家をして不安を感せしめ、聯合と相互扶助とが競争よりも優秀なものなることを感せしめたのである。かくて正統學派の經濟學説は、その權威を疑はれるに到つた。土地改良の運動は、その勢力を増大し、「國有」Nationalisation なる語は創造せられた。さうして社會主義團體は勃興したのである。H. M. Hyndman に統率せられ、Marx 流の階級闘争を主張する Social Democratic Federation、實際政治上において徐々とその社會主義的施設を實行しやうとする Fabian Society、舊式の労働組合の指導者を排斥し、さうして労働組合の新人に社會主義的思想を包懷せしめやう

James Keir Hardie の首班である Independent Labour Party, 等がこの主なるものである。さうして彼等の主張するところは革命的、穩和的の差異はあつても、共に均しく集産主義的社會改造論であつた。

第四期は一九一〇年以後であつて、集産主義的、議會主義的社會主義が革命的または非集産主義的社會主義に移つた時代である。既に集産主義的社會主義に對する批判的態度は H. M. Hyndman と其の Social Democratic Federation の首領様であつた William Morris によつても見ることが出来るが、一九〇六年における Arthur Penty の Resoration of Guild System は Fabians が anti-socialist. の社會主義批評としてある如く集産主義に對する反對であらう。さうして同年 Contemporary Review に掲載された A. R. Orage の一文と同様の系統に屬するもの

であらう。然し、實際に労働者の心理を革命的社會主義の方向へ向けたものは労働黨が議會において労働者の要求を十分に満足せしむることが出来なかつたことがその最大の原因である。この時代において労働不安は社會を襲つた。かくて労働者の頭腦に政治的社會主義の無能が印象されたのである。この政治的社會主義が決して労働者の幸福を齎らすものでなうことを主張した最も顯著な文獻は "... If we do not restore the Institution of Property we can not escape restoring the Institution of Slavery; there is no third course." と云ふ分産主義の立場から書かれた Hilaire Belloc の The Servile State, October 1912. である。この書はそれ自らにおいて決して顯著な勢力を得ることは出来なかつたけれども、爲めは Syndicalism を流行せしめ、更らう Syndicalism と Collectivism との批評から Guild

Socialism を生むに力あつたものと云つても過言ではなからう。かくて S. G. Hobson, G. D. H. Cole, Wm Mellor 等の主張たる Guild Socialism (or National Guilds system) は現代英國の社會運動の指導的精神となつたのである。彼等は労働組合においては産業的労働組合主義を主張し、吾々は Robert Owen の革命的理想主義に歸らざるべからずと絶叫する。さうして集産主義者如く國家主權を盲信することなく、之に對して正當なる制限を設け、ギルド組織と對立せしめ、労働者をして生産の喜悅を享樂せしめるために産業の管理權を得なければならぬと主張する。かくの如き Guild Socialism が第四期の主流をなしてゐるのである。

今「八十年代の英國社會主義」なる題目の下に私が取扱ふところは英國社會運動の第二期における社會的平和の時代から第三期に

において社會主義が英國に復活した事情並にその社會主義の性質について論ずる等であるが、八十年代におけるすべての社會主義學說並に團體を説明することは到底この一小論文のよくなる所でないから、その中心點を H. M. Hyndman の Social Democratic Federation に求め他の William Morris の Socialist League, Sidney Webb, Bernard Shaw の Fabian Society 等については更らに稿を更めて、研究して行かうと思ふ。

二

社會的平和の時代は有産階級の自由主義の全盛を極め、さうしてその思想は J. S. Mill の On Liberty, 1859. において有力に説述されたことは既に前節において説いたところであつた。更らに正統學派の經濟學説は Adam Smith の Wealth of Nations, 1776. Robert Malthus の An Essay on the Principle of Population, 1798. David

Ricardo の Principles of Political Economy and Taxation 1817. によつて大成されたのであるが是等三者の粹を抜いて、正統學派の經濟學說を組織的に説述したものの代表的のものとして、

J. S. Mill の Principles of Political Economy with Some of Their Applications to Social Philosophy, 1848. が掲げられるが、この有産階級の全盛時代における正統學派の代表的著作は、その版を改めると共に社會主義的思想が著しくなつて來たのである。(一八四九年再版、一八五二年第三版の序文参照) 即ち有産階級全盛の時代に既に社會主義的思想の萌芽を見ることが出来る。彼はその大著の第四篇第七章において勞働階級の將來を論じた。彼は勞働階級が自己の利益に關する問題は自身において、之を取扱ひ、且つ、彼等の利益が雇主のそれと一致せず、反つて之と相反してゐると思惟してゐることを指摘

した。さうして勞働階級の改善とその組織との結果、彼等の利益のために生産物を分配しなければならぬならば、現在の階級關係は永遠に繼續するものではないと主張した。彼は云ふ。

「私は勞働階級が、その窮極の状態としての賃銀のために勞働する状態に永遠に満足するだらうと考へることは出来ない。……平等の觀念が日に廣く貧民階級の中に傳播せられ、言論文章の自由の抑壓の如きものには、到底その大勢を阻止し得ざるが如き人類進歩の現状を以てしては、雇主、勞働者と云ふが如き傳習的二階級に人類を分つて置くことを永遠に支持しやうと期することは出来ないのである」と。斯くの如き状態は雇主並に被雇人の兩者に對して満足なものではない。公然の、または隱密の鬭争が兩者の間に開始せられ、かくて國家は損害を蒙るに至る。兩者の間に正義もなく、公平もない。

さうして雇主階級の間において、彼等と利害感情を異にしてゐる人々と接觸して生活するに耐えざるに至るのである。「資本家もまた、彼等のために勞働する人々が、彼等の計算において勞働する人々の、その仕事において感ずるやうな同様な興味を感ずる如き基礎の上において、産業を運用することについて、勞働者と同様の興味を持つてゐるのである。」かくて Mill は彼の社會主義に進んで行く。彼は英國並に佛國における階級鬭争と勞働階級の勢力の勃興とを認めたと。「もしも、人類の改善向上が繼續して行けば、その窮極において盛んになる勞働者の組合は、平等の條件において、集合的に資本を所有し、之を以てその産業を經營し、彼等が選舉し、且つ排斥し得る監督者の下に勞働するやうな勞働者の組合である。」さうして是等の團體は Robert Owen 並に Louis Blanc の著作に表はれた學說

によるものである。斯くの如く Mill の思想は社會主義に變化して來たのであるが、彼の遺稿である Autobiography によつては明かに社會主義者なることを示してゐるのである。(A History of British Socialism by M. Beer. Vol. II. pp. 187-189. Autobiography by J. S. Mill. 1873. Chap. V. VI. and VII. See Socialism by John Stuart Mill; edited by W. D. P. Bliss. Chap. I. pp. 1-11.)

更らに理論的見地から見て興味のあるのは、J. K. Ingram 博士(History of Political Economy. New edition. p. 139)が「Ricardo 學說の初期における最も組織的な、徹底的な批評家」と云つた Richard Jones(1790-1855)の學說である。彼は始め當時新設の London King's College の教授に任命せられたのであるが、一八三五年に到つて、Halleybury なる East India College の

Robert Malthusの後任として經濟學並に歴史の教授に任命せられた。彼はJ. S. Millと異つて著作するところも極めて少ないが、然し彼の著書において吾々は獨創的思索を見ることが出来るのである。彼は一八五二年出版のText Book of Lectures at Haileybury において資本と賃銀との關係を次のやうに述べてゐる。(Jonesのこの書は、この他の著作と共に彼の友人であつてその推奨者であつたWilliam Whewell博士によつて編輯された。Richard Jones, Literary Remains, 1859.)「最初の資本家、即ち最初に彼の蓄積した資産から労働の賃銀を前貸し、さうして斯くの如き前貸から利潤の形態において所得を求めんとしてゐる人々は通常労働者自身と異なる階級のものである。労働者と資本の所有者が同一となるやうな状態は今後において存在するであらうし、また世界のある部分においては、

その状態に近づきつゝある。然し乍ら吾々が觀察してゐる國民の進歩状態にあつては、吾々は資本を前貸することによつて、労働者に支拂ひ、その回收によつて特殊の収入を得んとしてゐる雇主の階級を見る。此の状態は労働者と資本家とが同一となる状態よりも、望ましい状態ではない。けれども吾々は、尙ほ、産業の進化における一階段として——それは進歩的諸國民の進歩を語るものである——それを許容しなければならぬ」(Literary Remains, Lecture IV, p. 45)斯くの如く資本主義は人類の經濟的發達における一階段である。加之、政治的、社會的、道德的、智識的の大變化は、社會の經濟組織における變化と密接なる關係がある。故に經濟學は單に資本、利潤、地代、並に賃銀の科學であるのみならず、社會科學の基礎である。何となれば「經濟的變化は必然的に、それが惹起せられた

人々中の政治的並に社會的要素に決定的の影響を及ぼし、その影響は智識の性質、風俗、習慣、道德、諸國民の幸福にまで及ぶからである。かくの如く諸國民の經濟的並に社會的組織とその生産力との間には密接な關係があるのである」(Ibid., pp. 405-6)かく第四講(Lecture IV)は甚だ綿密なる研究に富んでゐる。またMaxistの唯物史觀の萌芽かこゝに發見せらるるのである。彼の論述は資本主義と反資本主義の微妙なる平衡状態にあると云ふことが出来る。(M. Beer, op. cit. Vol. II, pp. 189-190 Richard Jones, Peasant Rents, 1831, edited by W. J. Ashley 1897. pp. V-VII)

以上の如くJ. S. Mill並にRichard Jonesのやうな著名の思想家は社會的進歩の過程を洞察することが頗ぶる鋭敏であるが、一般の思想界に至つては、未だ全く有産階級の自由主義の支

配するところであつた。Mill並にJonesの如きは單に來るべき社會思想の黎明を知らせた先驅者に過ぎなかつたのである。

之をまた労働界に見てもChartist運動の崩潰後の十年間は靜穩な十年間であつた。労働運動を復活しやうとするすべての努力は無効に終つた。さうして労働者階級は、すべての政治運動を捨てて、その勢力を労働組合の組織と消費組合の發達とへ向けた。Cobden並にBrightのやうな政治家は、労働階級の政治的に無關心であつて、彼等に労働階級を振起せしめる能力のないのを嘆じた。また有産階級はChartist運動の實際的教訓に鑑みて穩和な改良政策を以て民衆に對した。けれども民衆は何等の反響を起さなかつたのである。一八六一年にCobdenは労働者階級が「彼等に與へられる嘲罵と攻撃に對して靜穩である」ことを嘆じ「彼等は、彼等の政治的

壓迫者に對して奴隸階級の反逆を指導すべき一
の Spartacus なきか。余は現代をして斯くの如
く靜穩ならしむるものは Chartist の愚學に對
する反動であると思ふ。John Morley,
Life of Cobden. ed. 1903, p. 829.) 一八六三年に
おいても Cobden は當時の労働者の状態を政治
的緩慢の状態であるを云つた。然し乍ら、二年
後において労働者は選挙権擴張のために大活動
を開始し、一八六七年には選挙権を獲得した。

この急激な變化は國際政治界における出來事の
影響である。北米南北戦争、ポーランドの内亂、
並に國際労働者協會(The International Working
men's Association, Internationale Arbeiterassocia-
tion)の運動がこれである。Chartist 運動以後に
おいて英國の思慮ある労働者は常に外國の進歩
的運動に多く同情した。北米南北戦争當時にお
いては彼等は北部に對して同情をした。やうし

等はまた International Working Men's Associa-
tion の最も有力なる會員であつた。

かくの如く國際主義が著しく労働運動の促進
に與つて力あつたのであるが、更らにまた他の
國際的労働運動の起ることによつて労働運動が
一段の發達を爲すに至つたのである。それはポ
ーランド並にイタリーの運動に同情を持つてゐ
た佛蘭西の進歩的労働者が、英國の労働組合主
義について學びたがつてゐた彼等の首領株を、
一八六二年開催のロンドン萬國博覽會を機會と
して英國に派遣して、ロンドンの労働運動指導
者と密接な關係を結ばしめたことである。一八
六三年に意見を交換した彼等は國際労働者協會
設立の目的を以てロンドンに會議を開催すると
を決定した。即ち翌一八六四年九月二十八日を
以て會議を開催することとなり、ロンドン在住
の各種労働團體の代表者を講演者として、また

て一八六三年のポーランドの内亂に際しては、
ポーランド人に對して滿腔の同情を表した。伊
太利の自由主義の運動もまた英國労働者の厚い
同情を受けることが出來た。さうしてその首領
である Garibaldi がロンドンに來つたときは、
彼等は心から彼を歓迎した。斯様な運動は政治
運動となつて、一八六四年には選挙権獲得期成
同盟が成立し、この同盟は更らに Reform Le-
ague となり、政府をして第二回の改革案を提出
せしめ、さうして英國をして民主主義の國た
らめたのである。この國際的運動と國內の政治的
運動とが密接の關係のあることは以上のやうな
國際的運動のために集會を催し、示威運動をし
た人々と政治運動の首領株の人々が同一であ
ることによつて明白である。その指導者は次の
如き人々であつた。George Odger, W. Randall
Cramer, Robert Applegarth 等がこれである。彼

は來賓として招待することとなつた。その招待を
受けたもの一人が Karl Marx で、彼の深遠廣
汎なる學識と非凡なる能力とは彼をして直ちに
新團體の智識的指導者たるに至らしめたのであ
る。(M. Beer, op. cit. Vol. II. pp. 200-202)

會議は一八六四年九月二十八日ロンドンの
Long Acre なる St. Martin's Hall にあつて開
催せられた。Edward Spencer Beesly 教授は座
長席に就き Marx は Address to the Working
Classes (この文書は Inaugural Address として知
られてゐる。)と云ふ様式の下に指導的原理を明
かにした宣言書を起草した。その原理も主義も
Chartism の精神であつた。さうして Marx の勞
働階級的政治思想は Chartism の政治思想と一致
し、彼の考へではこの新團體を理論的基礎を持
つた Chartism を復活する機關としやうとする
にあつた。彼はこの "Address" において、英

國の富の激甚なる増加にも拘らず、「この富と權力との絶大なる増加は全然有産階級に限られたことである」ことを指摘し、労働階級がこの有産階級の暴富を見ながら貧困に沈んで行くことを力説した。Chartistの運動はこの貧困に對する戦であつた。彼等は約三十年の間悪戦苦闘を續けて、十時間制度を獲得するに至つた。それは英國労働者の物質的、道徳的、智識的の大改善に與つて力あるものであつた。Chartistは生産を社會的予想と人道的考慮によつて統制しやうとした。故に、十時間法案は、單に一の大なる實際的施設であつたのみでなく、それは一の原理の勝利であつた。それは、自畫有産階級の經濟學が労働階級の經濟學に對して、服従した最初のことであつた。かくてMarxは生産組合の效績を述べ、政治における國際主義を主張したのである。かくの如くAddressの内容はChartistの色

彩の濃厚なるものがあつた。たゞ異なるところはMarxにあつては、充分なる、哲學的、經濟學的、並に政治學的智識があつたにも拘らず、彼等においては之れを缺いてゐたことである。彼が協會のために作つた原理は次のやうなものである。

「労働階級の解放は労働階級自らによつて成就されなければならない。この解放のための闘争は階級の特權と獨占との爲めの闘争ではない。反つてそれは平等なる權利と義務と、すべての階級的支配を廢止するための闘争である。労働者の生産手段または生活資料の所有者に對する經濟的隷屬は、すべての形態における隷屬の、すべての社會的困窮の、精神的情落の、さうして政治的從屬の基礎である。故に労働階級の經濟的解放は、すべての政治的運動が手段として從屬しなければならない大目

的である。労働の解放は地方的または國民的問題ではない。それは現代の社會が存在するすべての國を包含し、その解決には最も進歩せる諸國が實際的にも理論的にも一致することを要する社會問題である。」

斯くの如き目的を達するのがI.W.M.A.の目的であつた。Marxは此の目的を達するため労働階級に對して、それが全く政治的權力を得、生産手段を國有とするまでは、議會においては社會改良と工場法とを要求し、すべての侵略的外交に反對し、且つ間斷なく階級闘争を行ふことを教へたのである。

かくてI.W.M.A.は成立し、更らに一八六五年にはロンドンにおいて、一八六六年にはゼネバにおいて、一八六七年にはロザンにおいて、一八六八年にはブルヌセルにおいて、一八六九年にはベルンにおいて、一八七二年にはヘーグに

あいて年次大會を開催した。さうしてこの一八七二年のヘーグの大會においてI.W.M.A.は事實上崩潰の運命に立ち到つたのである。始めMarxは政治運動を主張し、議會主義を以て、労働運動の主要手段と考へ、労働組合運動を以て副手段としたのである。(勿論Marxは革命労働組合主義の主張者であつた。)然るに佛國、スウイス、獨逸、ベルギー、イタリア、ロシア等の團體の加入によつて、運動の手段についての争が起つて來た。彼等は運動の手段として革命的經濟的方法と内亂を目的とする陰謀とを主張した。このMichael Bakunineを主とする無政府主義者とMarxを主とする議會主義との争が遂にI.W.M.A.をして崩潰せしめたのである。

以上の如く労働運動における國際主義は明かに失敗に終つて、英國労働運動に對して、Marxの及ぼした影響は絶無と云つていいのであるが

八十年代の英國社會主義に對しては、後に詳述するやうに H. M. Hyndman を通じて少なからず影響を及ぼしてゐるのである。然し Marx が一八四九年から一八八三年に涉つて英國ロンドンに亡命客として滞在し、彼の經濟的智識をこゝに求め、Wilhelm Liebknecht をして「資本論」はたロンドンにおいてのみ創造され得たものである。(Karl Marx: Biographical Memoirs. Eng. Trans. p. 32) と云はしめた程資本主義の發達した英國におりながら少數の亡命外國人以外に多くの影響を與へ得なかつたことは我々の不可思議とする所である。(M. Beer. op. cit. Vol. II. pp. 202-222. 参照)

中世の紀年法大意 (下)

間崎 万里

第三節 年

年を示すには、統治者の治世、一定年數を反覆する周期(a cycle)、或は一定の日附又は紀元(an era)を起點として計算する一連年の中に、年の占むる位置を以てする。上世の紀元、例へば世界紀年 (The Year of the World) (之は種々に計算されてゐる)、オリンピック紀 (The Olympiad)(註)、羅馬紀年 (The Year of Rome)、及びセリーマント王朝紀元(The Seleucid Era)の如き種々の紀元は年表などには往々掲記せられてゐるけれども(註)、爰には之を打算に入れないうで、實用上、上記の三種の紀年法丈けに限つて置かう。

註、近頃米國の雜誌には Olympiad を誤用して Olympic Games の意味に使用するものも行はれて來た。誠に弊止の至りである。(一九二〇年九月十八日刊行の The Nation 三二五頁參照)

本邦で神武紀元を稱するに至つたのは、明治五年十一月十五日太政官布告第三四二號『今般太陽曆御頒行、神武天皇即位ヲ以テ紀元ト被定候ニ付其旨ヲ被告候爲メ來ルニ二十五日御祭典被執行候事』といふ文面によつて明かであるが、次いで同六年三月七日太政官布告第九一號により『神武天皇御即位日ヲ紀元節ト被稱候事』となつたのである。

序年ら御參考までに諸種の紀元の一覽表を左に併記して置かう(『大英百科辭典』第十一版第四卷、一〇〇三頁) Table of Epochs, Eras, and Periods.

Name	Christian Date of Commencement
Graecian Mundane era.....	1 Sep. 5508 B.C.
Civil era of Constantinople.....	1 Sep. 5508 "
Alexandrian era.....	29 Aug. 5502 "
Ecclesiastical era of Antioch.....	1 Sep. 5492 "
Julian Period.....	1 Jan. 4713 "
Mundane era.....	Oct. 4008 "
Jewish Mundane era.....	Oct. 3761 "
Era of Abraham.....	1 Oct. 2015 "

Era of the Olympiads.....	1 July 776 B.C.
Roman era.....	24 April 753 "
Era of Nabonassar.....	26 Feb. 747 "
Metonic Cycle.....	15 July 482 "
Graecian or Syro-Macedonian era.....	1 Sep. 312 "
Tyrian era.....	19 Oct. 125 "
Sidonian era.....	Oct. 110 "
Caesarian era of Antioch.....	1 Sep. 48 "
Julian year.....	1 Jan. 45 "
Spanish era.....	1 Jan. 38 "
Actian era.....	1 Jan. 30 "
Angestan era.....	14 Feb. 27 "
Vulgar Christian era.....	1 Jan. 1 A.D.
Destruction of Jerusalem.....	1 Sep. 69 "
Era of Maccabees.....	24 Nov. 166 "
Era of Diocletian.....	17 Sep. 284 "
Era of Ascension.....	12 Nov. 295 "
Era of the Armenians.....	7 July 552 "
Mahomedan era of the Hegira.....	16 July 622 "
Persian era of Yazdegerd.....	16 June 632 "

羅馬の帝政治下に於ける年の區分は統領の氏名を以てした。統領職は一年を任期としたので、